

女子依存症回復支援センター

女子依存症回復支援センターでは、違法薬物の自己使用の問題を抱えた女子受刑者に対し、「薬物依存症からの回復」に焦点を当てた処遇を実施しています。

農作業



専門
プログラム



社会に
近い環境

札幌刑務支所



【プログラム】

①コアプログラム

女子依存症回復支援センターの受刑者に向け開発されたテキスト（全42單元）を用いて、グループワークを実施しています。出所後に実施する單元もあり、受刑段階から出所後の支援と直結した指導を目指しています。



②センターミーティング

与えられたテーマについて考え、自らの体験に照らし合わせて話をすることを目的としたプログラムです。

③NA/AA

依存症からの回復過程を歩んでいるNAやAAのメンバーを迎え、自助グループがどのような場所で、どのような活動を行っているのか等を紹介いただくとともに、メンバーからのメッセージを運んでいただきます。

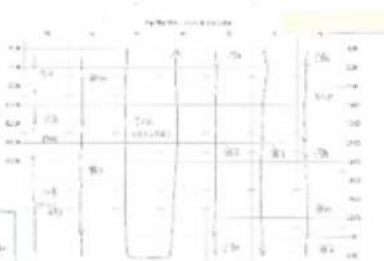
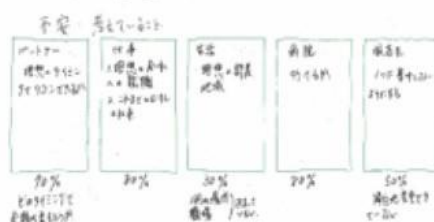


④プリズンブッククラブ

書籍の音読を通して、物語の世界を体感するとともに、様々な言葉や表現に触れることで、言葉に対する感度を高め、また、未知の領域への関心を発掘していきます。

⑤生活術

暮らしに関わる様々な知恵や技術を学びます。受刑者個々のニーズに応じた情報提供などもしています。



⑥ソマティクス

薬物使用の動機のひとつとして、「痛み」の除去があります。有資格者の指導により、身体の筋肉を収縮・弛緩させ、自らの身体への感度を上げています。



「手仕事&アート」作品

⑦手仕事&アート

創作活動としてコラージュや刺し子等をしています。テーマに応じて、自由な発想で作品を作り、非言語による表現をしています。

【刑務作業】

プログラムとの相乗効果を期待した処遇を実施するため、心身に与える効果が期待できる農作業などを取り入れ、いちごの栽培などを実施しています。



【みのり寮】

プログラムを受ける受刑者の多くは、夜間・休日、みのり寮で生活しています。

みのり寮は全室個室になっています。

プログラムや作業を通じて、みのり多い時間を過ごしてほしいという思いを込めて、「みのり寮」と名付けました。



1日のスケジュール（平日）

6:40	起床
7:20	朝食
7:40	出寮
8:30	刑務作業
10:00	プログラム
11:50	昼食
12:25	運動
13:00	プログラム
14:30	刑務作業
16:30	夕食
17:00	帰寮
18:00	余暇活動
22:00	就寝



「手仕事&アート」作品

【社会に近い環境】

工場担当、教育専門官など多職種の職員が互いにその専門性を生かし、協働して、個々の受刑者の特性に応じたきめ細やかな処遇を行っています。

また、自分で考えて行動する機会を繰り返し経験するという社会に近い環境で、自主性を育む指導に取り組んでいます。



【ケア会議】



「手仕事&アート」作品

女子依存症回復支援センターでは、出所後の支援を担う保護関係機関等の関係者を交えたケア会議を開催し、個々の受刑者にとって、どのような出所後の支援が必要であるかを受刑中に検討し、円滑な社会復帰を目指しています。

【施設の沿革】

- 令和元年 12月 ビニールハウス設置
- 令和2年 3月 女子依存症回復支援センター
改修工事完了
- 令和2年 4月 モデル事業収容開始
(みのり寮開放居室26室、施設可能4室)
- 令和6年 4月 本事業開始

札幌刑務支所
女子依存症回復支援センター

〒007-8603札幌市東区東苗穂2条1丁目5-2
TEL:011-784-5241(代表)